

「夜襲参陣者の推定」

夜襲 1180年8月17日

八牧系図(1593)に兼隆家人貳百餘騎とある

豪族の推定

源頼朝挙兵	
土肥(湯河原)出陣者 (吾妻鏡：46人)	
伊豆国 27人	
相模国 16人	
駿河国 2人	
武蔵国 1人	

◆他国者の集合方法？

吾妻鏡を補正	
吾妻鏡 46名	
祈祷/案内 2名	
推定豪族 14名	
計	

[史料等の所見]

1. 葦山資料館史料
約70騎
2. 「やまき」会報7号
P5淑博氏記述：85騎
3. 「やまき」会報4号
P27激録/日本大戦争
原康史著：250騎
4. 「やまき」会報4号
P12宇野親信参陣？
淑博氏記述は疑問
江川家文書の所見
宇野/江川吾妻鏡に無

挙兵参陣者(頼朝軍)		態度不明の伊豆・駿河豪族	
1	北条時政(42)	葦山	01. 南條(葦山)
2	北条宗時(嫡男20?)	石橋山合戦討死	02. 古奈(伊豆長岡)
3	北条義時(17)	江間小四郎 妻祐親娘八重姫	03. 田京(大仁)
4	北条平六時定	時政甥	04. 肥田宗直(葦山)
5	安達(足立)盛長	妻頼朝乳母比企尼長女	05. 多田経実(葦山)
6	工藤茂光	修善寺 石橋山合戦討死	06. 加殿(修善寺)
7	工藤親光	修善寺 茂光五男	07. 日向(修善寺)
8	宇佐美助茂	宇佐美 工藤祐継の子	08. 田代(修善寺)
9	宇佐美政光	宇佐美 兄	09. 小川(中伊豆)
10	宇佐美実政	宇佐美 弟	10. 城(中伊豆)
11	土肥実平	湯河原 土肥祖氏/宗平次男	11. 八幡(中伊豆)
12	土肥遠平	湯河原 実平の子、	12. 金持(沼津)
13	土屋宗遠(52?)	平塚 父、中村宗平三男	13. 牧(沼津)
14	土屋忠光	平塚 宗遠嫡男	14. 沼津(沼津)
15	土屋義清	平塚 岡崎義実の子	15. 香貫(沼津)
16	岡崎義実	伊勢原 三浦義明の弟	16. 河津(河津)
17	岡崎義忠(嫡男25)	伊勢原 佐奈田与一	17. 三津(西伊豆三津)
18	佐々木定綱(嫡男38)	高座渋谷 嫡男/母源為義娘①	18. 八木沢(西伊豆)
19	佐々木経高(次男?)	高座渋谷 次男/母宇都宮娘①	19. 柿木(湯ヶ島)
20	佐々木盛綱(三男29)	高座渋谷 三男/母源為義娘②	20. 雲金(湯ヶ島)
21	佐々木高綱(四男20)	高座渋谷 四男/母源為義娘③	21. 青羽根(湯ヶ島)
22	天野遠景	伊豆長岡 伊豆宗平三男	22. 船原(湯ヶ島)
23	天野政景	伊豆長岡 遠景嫡男	23. 吉奈(湯ヶ島)
24	天野光家	伊豆長岡 遠景次男	24. 阿多美(熱海)？→北条
25	大庭(徳島)兼義(長兄)	茅ヶ崎 大庭景宗嫡男	25. 小泉(裾野)
26	豊田景俊	平塚 大庭景宗次男	26. 大森(裾野)
27	仁田忠常	葦山	27. 葛山(裾野)
28	加藤景員	大仁 父	28. 大沼(御殿場)
29	加藤光員	大仁 景員嫡男	29. 合沢(御殿場)
30	加藤景廉	大仁 景員次男	
31	堀親家	修善寺 兄	推定豪族 人数 参陣者
32	堀助政	修善寺 弟	水色全員参陣 5 5
33	中村景平	二宮 兄、中村宗平孫	肌色60%参陣 10 6
34	中村助政	二宮 弟	他20%参陣 14 2
35	鮫島宗家	富士(田子の浦)	中条成綱(兄) 1 1
36	七郎武者(鮫島)宣親	富士(田子の浦)	推定計 30 14
37	大見家秀	修善寺	
38	近藤国平	葦山 国高との関係不明	頼朝と館いた人物
39	平佐古為重	横須賀 三浦義明弟	1. 永江頼隆(神職) 8/16・23
40	奈古谷頼時	葦山	2. 藤原邦通(官吏) 6/22・8/4
41	澤宗家	大場	3. 江本新平次(見張役) 8/17
42	義勝房成尋(弟)	埼玉中条・中条家長の父	4-6. 護衛 3名(左表○印)
43	中(中原)惟重(兄)	三島	
44	中(中原)惟平(弟)	三島	山木兼隆(平家方)
45	新藤次(鎌田)俊長	東伊豆 鎌田政家の子	1. 伊東祐親(伊東)
46	小中太(中原)光家	頼朝家人 三島	2. 堤信遠(国司)
47	住吉昌長	折禰師 頼朝命で同行	3. 平井久重(函南)
48	源藤太(ゲントウ)	先導案内役 堤館案内係	4. 原(駿河原)

頼朝護衛：○
相模国
駿河国・武蔵国

「夜襲」は無く「だまし討ち」？(三嶋大社大祭の祝宴に家長を招待)

※. 信憑性の高い慈円『愚管抄』には「サテ治承四年ヨリ事ヲオコシテウチ出ケルニハ…」と叙述され、兼隆館夜襲の事は一切触れていない。(日本古典文学大全・岩波書店刊) 「事ヲオコシテ…」は『吾妻鏡』治承四年(1180)8月20日項、土肥への出陣が窺える。

1. 頼政・仲綱・宗綱の嫡流三代は討死。伊豆にいたとする広綱(頼政五男)・有綱(仲綱次男)・成綱(仲綱三男)は、夜襲に参陣したとWikipediaに記されているが、『吾妻鏡』に一人の名も無いのは何故か？
2. 記念すべき旗揚げの日を「夜襲当日」ではなく「湯河原土肥へ向かう」8/20とした理由とは？
3. 京から来た藤原邦通(兼隆友人)に、兼隆館の絵図を作成させた。京の友人が夜襲に利用する絵図を描くか？
4. 兼隆館が立派な居館と想像からの前3項が記されている。判官在任は50日以下で大邸宅は建てられない？
5. 8/17は延期出来ない日とある。佐々木四兄弟の遅れが決行判断となるのか？(14時に到着、急遽夜襲に変更)
6. 鞠子川(酒匂川)を17日午前に渡河しなければ14時に到着できない。前日15・16日は大雨で渡河は出来ない？
7. 当時の狩野川は守山の東側を流れ、夜襲には狩野川を渡河しなければならない。前六項と同じ状況である。
8. 鞠子川以東陸路の相模武士は、佐々木四兄弟以外全員参陣した。何故か？(海路の三浦一族の遅れは判る)
9. 三浦義澄、義連ら三浦一族10名は海路の予定で悪天候の為遅れる。最遠方の同族が重一人参陣出来た訳は？
10. 武蔵国から一人参陣している義勝房成尋が一族で参陣した。最遠方から参陣できたのは何故か？
11. 駿河国(田子の浦)鮫島宗家・宣親が夜襲に参陣している。国衙三島を如何に通じ葦山まで参陣できたのか？
12. 翌日8/18に蜂起は三島の国衙(政庁)に届くが、国衙追討軍は8/18・19・20と三日間、何をしていたのか？
13. 兼隆は伊豆豪族達の不評を買うと叙述される。判官在任、僅か50日未滿の判官職で不評を買うのか？
14. 殺害された兼隆・兼光(嫡男)・堤信遠は嫡流である。嫡流三名のみ殺害された理由とは？
15. 安達盛長が加勢を各豪族に打診している。その時点で平家方豪族に計画が発覚し追討されるのでは？(山内経俊・波多野義常は罵倒し、三浦義明・千葉常胤・上総広常は快諾)
16. 進軍中時政が肥田原で二手に分け、堤信遠館を思いつきで襲撃する訳はない。時政主導の着飾った叙述か？
17. 頼朝夜襲隊が大回りするのも不思議である？狩野川の渡河に有利な浅瀬とも思えるが、頼朝護衛の三名が、頼朝命で蛭ヶ島小路を徒歩で援軍に駆り出されている(下記②)。蛭ヶ島小路で渡河出来るのか？
18. 一進一退の攻防戦で兼隆・兼光・堤信遠が討死し、夜襲隊はかすり傷で終わる。半日掛りの戦闘で？
19. 舞台は居館であるが、婦女子、子供の叙述は皆無である。命を懸けた一戦なのに北条政子の記述が無い？失敗すれば逆説で追討される運命なのに？
20. 戦闘が拮抗し、頼朝護衛の三名が蛭ヶ島小路を徒歩で援軍に向かう。盛綱は一番信頼している佐々木四兄弟で出陣に間に合わず襲撃が一次待機となった重要人物だが、頼朝の護衛とは？信じられない。又、この三名の援軍の一人、加藤景廉が兼隆公の首を挙げた。出来すぎ感が漂う『吾妻鏡』の叙述である。

- 北条政子登場(異常な放漫・強欲、極度の嫉妬心、強力な自我=親や子を殺害) 『吾妻鏡』1199年の条に頼朝死亡はない。13年後、相模川橋供養の掃りの落馬説が記されている。何故か？ 通説は建久九年(1198)12月27日落馬し、怪我が原因で翌年の1199. 1. 13に死亡(51才)したとされる。それは編纂者得宗家が、頼朝の死亡を即日に書けなかった重大な訳が隠されている。
 - ①. 我が子嫡男頼家(第二代鎌倉幕府将軍)を伊豆修善寺へ流罪(1203)、翌年暗殺？
 - ②. 2年後、父時政を流罪(1205)に処し自害(1215)に追い込む。政子の許諾はあった？
 - ③. 極度の嫉妬心から頼朝側室の居館を取り壊す。
 - ④. 共に闘って来た有力御家人を次々と滅ぼす。(梶原景時1200・比企能員1203・畠山重忠1205)
 - ⑤. 三代将軍実朝(次男)までも暗殺(1219)？意図的に源氏(頼朝)の血流を根絶させた？
 - ⑥. 極度の嫉妬心の増幅から、夫頼朝をも暗殺？に参与したと思える。
 自ら源氏の血脈の根絶し、北条家の天下を実現させた、まさに女傑中の女傑と思える。

※. 「夜襲」は政子の策では！？